

第6回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録

【審議会概要】

日時	令和5年9月14日（木） 14：00～16：00
場所	武蔵野市役所 812 会議室
出席委員	福田敦会長、生駒耕示副会長、安藤孝委員、高橋勉委員、浅川絢子委員、 渚上佳子委員、石渡志津委員、田川良太委員 （欠席）平湯友子委員
事務局	吉崎産業振興課長、尾崎経済対策調整担当課長、庄司係長、 北村まちの魅力向上担当係長、藤木主任、須藤主任
専門部会 次第	1 開会 2 議題 (1) 報告事項 ア 第5回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録（要旨） イ まちの魅力発信を考えるトークセッション実施報告 (2) 討論 第三期武蔵野市産業振興計画素案について (3) その他 3 閉会
配付資料	次第 ・資料1 第5回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録 ・資料2 まちの魅力発信を考えるトークセッションの実施報告について ・資料2別紙 まちの魅力発信を考えるトークセッション アンケート結果 ・資料3 第三期武蔵野市産業振興計画 素案

【議事】

1 開会

- ・配布資料の確認

2 議題

(1) 報告事項

- ア 第5回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録（要旨）
資料1について事務局より説明

- イ まちの魅力発信を考える トークセッション実施報告
資料2、資料2別紙について事務局より説明

会長	5名の委員が参加された。参加された委員から意見・感想があればお願いしたい。
委員	キャッチコピーのプロである田島さんが、市内で見かけるキャッチコピーに釣られて店舗に入ることもあるという話が興味深かった。また、坂井さんは終始まちへの愛を語っておられた点が印象的だった。昨日行った杵築大社例大祭の準備会で商店会の諸先輩が昔話で盛り上がっていた。昔から業種や立場が違ってても皆が力を合わせて、まちを愛し、まちの情報を発信してきたことを改めて認識した。 東京国立近代美術館で開催していたガウディの展覧会で、「作品は協働の成果であり、協働は愛を基礎にしていだけ可能である。」といったフレーズを見かけた

	が、まちづくりにも通じる言葉だと思う。来街者の人にまちを愛してもらうためには地域の人たちが自分たちのまちを愛していないといけない。そんなことを感じるトークセッションだった。
委員	吉祥寺は銀座と共通点が多いという話があったが、銀座には銀実会という活発に活動している会があり、人のつながりを感じるまちづくりを行っている。例えば地元の商店会が大企業にも働きかけたりしている。武蔵野市でも多摩信用金庫が祭りを手伝ってくれており、今取り組んでいることは間違っていないと感じた。
委員	坂井さんが終始まちが好きと語っておられて、まちが好きな人の姿は清々しいと思った。田島さんの話では、ベストな情報発信として、個々の人が発信していくことで相対的な発信力を高めていくということが重要という話があった。理解はしていたが改めてマスメディアの人が語ることで説得力があった。 当委員会で議論したことを二人のパネリストから聞いたことから、委員会も同じ方向性で議論していたことが確認できた。まちのあり方の共通ビジョンをまちぐるみで作っていくことは難しいが、武蔵野市の来街者数について団体利用客、インバウンド、地元住民、近隣来街者ごとに目指す比率を設定するなど、具体的ビジョンをエリアごとに持てると個々の商店会も具体的な活動ができるのではないか。
委員	市の公開イベントとしては様々なチャレンジがあった事業だった。二人の掛け合いで会場が温かい雰囲気の中で進められたことが印象的だった。住んでいる人も生活しながら、市外の人も訪ねていいまちと感じられることを想起させる、本計画にマッチしたセッションだった。
会長	「Hanako」は創刊された 1988 年から、ほぼ 1 年に 1 回は吉祥寺を特集しているとのことだった。吉祥寺の移り変わりを継続して定性的に見てきた雑誌だと思った。記事を紐解いて、まちにどのような盛衰があったのかを調べてみる価値もあると思う。 創業や起業が多いイメージがある中道通り商店会でもオーナー化が 8 割ほど進んでいるとのことだった。オーナー化が進み、テナントのすり変わりが進む中で、吉祥寺らしさや武蔵野市らしさがどのように変化していったかを調べることも価値があると感じた。 坂井さんが商店会連合会として住宅地側への配慮も必要といった話や全方位的な視点で発言されていたことに感銘を受けた。

(2) 討論

第三期武蔵野市産業振興計画 素案について

資料 4 について事務局より説明

会長	項目が多いので、前半部分と後半部分に分けてご議論頂きたい。 まず、前半部分の第 1 章～第 4 章について、ご意見・感想をお願いしたい。
委員	私が武蔵境地区の商店会の役職に就任した 2011 年以降、調査結果にもある事業承継やデジタル化への対応等がネックとなって、11 商店会から 8 商店会に減少した。近隣住民アンケート調査結果では、「核となる大型商業施設の誘致」や「特色や個性のある小売店の増加」が必要とされており、スクラップ＆ビルドが加速しているのが現状である。武蔵野市のサポートを受けながら、疲弊する商店街を活性化するために、新しい店を導入するための仕組みを作っていかなければいけない。 市民アンケート調査結果をみると、「買い物しやすい、歩いて楽しい商店会」が求められているが、いつも「歩いて楽しい」とは何かと考えてしまう。吉祥寺は多様な物販小売店が立ち代わり出店しているため歩いて楽しいことが理解でき、武蔵境にはその楽しさが無いように思われるが、子どもの目線で見ると異なる。 素案 21 頁にも、子どもの世代のところに「商店会で商売を体験してみたい、学べる場があるといい。」と記述されている。武蔵境の第二小学校の校外授業で、すきっぷ通りのまち探検を実施しているが、子どもの関心は高く、いつも質問攻めにあう。 素案 16 頁に子どもへのアントレプレナーシップについて記述されており、子どもに店の大切さを教えることの大事さも謳っている。将来を担う子どもたちの育成を真剣に取り組んでいきたい。
委員	素案 11 頁に地域密着型観光とあるが、これだけ読むとよく分からない。地域密着型観光はウィズコロナで生まれた新しい観光戦略であり、今後、地域密着型観光が必要とされていくという表現にした方がよいのではないか。 地元を知り、体感することも観光であり、吉祥寺を見に来るのではなく、体験できるようにしていけばよい。 消費すると言う表現は寂しいので、食べ歩きから食を楽しむといった表現に変えてもいいと思う。 素案 12 頁の「高付加価値化、稼ぐ力の育成」について、人を集めるというよりも、お金を落としてもらう仕組みを作って人を招くような高付加価値化が今後必要である。薄利多売でなく、高付加価値を追求する、吉祥寺や武蔵野市はそういうまちであるべきで、そのようなまちを目指していきたい。 素案 18 頁にあるデジタル化と DX についてだが、例えば薪能を発信しているところが山のようにある中で、それを取りまとめてつなげる親サイトを作っていくといったことが観光 DX として考えられるのではないかな。
委員	素案 12 頁の「事業が持続・発展する環境づくり」について、多摩信用金庫の顧客だけでも本年 4～6 月で倒産 100 社を数え、昨年比 1.5 倍と増加しており、今後も増えてくる可能性がある。融資返済ができないため少額返済にするとといった相談等が多くなっていることを考えると、素案の支援策は販売拡大に焦点が当てられているが財務支援や事業支援を盛り込んだ方がよいのではないかな。 素案 18 頁の「設定にあたっての主な関連項目」が分かりづらいので頁で示してはどうか。 素案 20 頁の「つながる場“プラットフォーム”」のイメージ図に事業者間連携や事業者の課題解決に向けた取組み等も追記してほしい。
委員	素案 20 頁の「つながる場“プラットフォーム”」のイメージがキーワードとなる。「多様な主体との連携体を構築し、新たな事業にチャレンジし、新たな魅力

	の創造につなげていきます。」とあるが、市民も受け身でなく参画するイメージを表すため、個人でも企画ができるような小さなつながりも入れ込んではどうか。お金にならないつながりの中からも新しいつながりができ、新たな事業のヒントが生まれる。そのつながりを作るための最大の課題は場所がないことである。そこで、市内にあるコミュニティセンターを利用してはどうか。コミュニティセンターが、窓口に行かなくても利用できるようにシステム化すれば、利用者も増えるだろう。コミュニティセンターで起業・創業支援の取り組みや、デジタルの推進拠点としての機能が付加されれば、さらにもっと広がるだろう。 素案3章のグラフは、回答が多い項目順にした方が見やすいのではないか。
委員	全体的に商業に寄った計画になっているが、市内には製造業もあるので、何らかの形で計画に入れ込めたらいい。素案16頁の「アントレプレナーシップ教育」では教育というところを明言されたのが良かった。事業者が自発的に取り組むためのスキル等の向上には教育は重要であり、計画の随所に教育が盛り込まれたことが良かった。
委員	この計画が武蔵野市の産業振興のバイブルとなると思っている。その点から今後5年間にやるべきことが十分盛り込まれていると思う。 武蔵野市のチャームポイントは、住宅地があって、すぐ近くに農家があることである。「CO+LAB MUSASHINO」の取り組みを通じて農家とコミュニケーションを取ることで、農家の顔が見えてきて、いろいろな声が聞けた。今後もこのようにコラボを進めていければよい。 一方、課題は大型店やホテル等の撤退である。また、帝国美術学校の発祥の地である美大通りにある武蔵野美術大学吉祥寺校も閉校・移転した。この帝国美術学校があったから画材屋が多くて漫画家等も集まっていた。法政一高も移転したが、撤退する前にもう少しつながっていたら、撤退の理由等が分かったかもしれない。今後、市内にある大手メーカーや学校など、武蔵野市の宝物のようなどころともつながっていく必要があるのではないか。この計画をもとに一緒に頑張っていきたい。
会長	製造業等の記述が足りないのではという意見はこれまでの専門部会の意見の中にもあった。実態やアンケート調査には、製造業の事業者も含まれているが、武蔵野市の産業構造は商業等のウェイトが高く、市民の暮らしにつながっているところもあり、方向性や記述内容が商業に偏っている。分析の部分で配慮を加える必要があると思われる。 第二期産業振興計画は、重点施策の設定があったが、今回はないので平坦な印象を受ける。素案18頁の方針4だけが「～まちづくり」と表現されているが、内容もまちづくりに関する記述はないので、他の方針の表現と合せて「～産業振興」とした方がよい。 素案20頁のプラットフォームのイメージは、二次元で表現するのは難しい。読み手によって理解が異なってしまう。主体をもう少し分けてはどうか。産業振興の主体となりうる大学や金融機関や社会福祉協議会等も追記してはどうか。 また、レイヤーとしては、BtoBもあればBtoC、CtoCもあり、コミュニケーションをベースとした信頼関係のあるネットワークをどのように構築していくかが重要となる。このプラットフォームに参加すれば、「消費者がこんなこと困っているのか、だったらこんなことができる」ということが分かり、新たな事業につながるかもしれない。事業者が気づいていないこと等、相互に紹介もできるかもしれない。暮らしと産業の共生の中で、産業分野と生活分野のインターアクションを通じて、ウェルビーイングな暮らしに貢献するような社会価値を創造するモデルを追求するといったイメージである。事業者のビジネスモデルは自分で完結するのではなく、いろんな人の意見や力を借りる、そのような相互のネットワークが期待できる場である。ネットワークは一つだけではなく、デジタル

	化すれば合理化するが、デジタルだけのネットワークで済むものでもない。いずれにせよ、信頼性が重要である。 「CO+LAB MUSASHINO」等をこれからどのように発展していくかを考える時に、振り向いてもらえるとよい。そこに付加価値を入れ込んでいったり、参加してもらえる構想を描ければよい。産業振興計画はグランドデザインなので、目指しているものを表し、市民が関心を持って参加してもらえるという。それが事業化にもつながる可能性がある。つながることを求められる、そういうものが武蔵野市には根付いているということが、一つでなくトータルで積み重なっていく構想が描かれるとよい。
会長	次に、後半部分の第5章～第6章について、ご意見・感想をお願いしたい。
委員	素案 30 頁の商店街の街路灯について、「その管理や電気料金の支払いは、市や東京都から補助金が出ていることもあります。一義的には商店会が自主的に行っています。」と記述されているがこの文言は必要か。というのも武蔵境から小金井市に向けて J R の高架下に店舗が並び商店街のように見える場所がある。商店街のように見えるが、実際は商店会ではなく、市の街路灯が建っており、設置・運営、費用負担をしていないところがあるためである。
委員	写真挿入箇所になどどのような写真を掲載するのが気になる。 素案 26 頁に、スポーツの話が記述されていない。S C 武蔵野があるので、サッカー等、スポーツとのつながりも入れられないか。 素案 27 頁では、コロナで生まれた新しい観光意識で考えてもらえるとよい。
委員	スポーツについては、「施策 9 特色ある地域資源の活用」で記述している。
委員	これまで議論してきたものがこのように形になって良かった。分かりやすく説明のコラムが入っている点もよい。ただ、四角い写真の下に、さらに四角い形のコラムがあると固い印象を受ける。コラムの囲い線は角を取った方がよいのではないかと。全体としては、読みやすくよくできている。
事務局	デザインは、パブリックコメント終了後に全体を統一的に施す予定である。また、パブリックコメントではあまり多くの写真を掲載せずに実施することを検討する。
委員	もう一点、デザインマンホールは実施が決まってい場所も決まっているのか。
事務局	今年度は吉祥寺駅北側の 7 か所にデザインマンホールを設置することが決まっており、三鷹や武蔵境については未定となっている。
委員	素案 14 頁に効果的情報発信とあるが、この計画を推進する上で最も肝となる点は、市民が欲しい情報を簡単に入手できるようにすることである。現在、欲しい情報にたどり着くのが困難で、見つけても最新の情報かも分からないためストレスを感じる。数年後に本計画を評価する際に、情報が届かないという理由で評価が下がってしまえば残念である。情報の整理、集約、見せ方への工夫等に対しても予算を付けて充実してほしい。
委員	素案はまとまっていて見やすい。素案 42 頁「施策 16 誰もが働き・活躍できる環境づくり」に「ライフワークバランスの理解」とあるが、3 年前ぐらいから、ライフワークバランスなのかという議論をしてきている。数年後、古い表現と認識されるのももったいないので、他の表現に変えてもよいかもしれない。 以前勤めていた市内会社は「良き市民であれ」という企業理念があって、安全安心で過ごせるまちの推進に関する取り組みも実施していた。地元企業とも連携していくという文言が入るだけでも企業とも連携してまちづくりを進めるまちと思えるのではないかと。
委員	いろいろなことがやりやすい計画になっていて、自由にいろいろ取り組んでいけばつながりも広がっていくのではないかと考えた。

	プロモーションレベルでなく、行政は本格的に行政の力だけではできない力強いものを推進していってもらえるとよい。
委員	本計画は、産業振興条例に基づき、今後5年間に産業振興を進めていくためのプランであるが、やりにくい点は、市は稼ぐことはできないことである。事業者が取り組む様々な産業活動がにぎわいや収益を生み出し、さらに市民に還元されていくことにつながっていく。そこで、市民や事業者がそれぞれに役割を担うことにつながっていくように、計画を通じて伝えていくことが必要と改めて認識した。 つながる場の形成は本計画の大きなテーマだと思う。昨日開催された庁内調整会議でも、武蔵野市において行政としての課題はつながる場だという議論があった。行政として様々なアクションを起こす前段階から、つながっていないと正しい方向に進めていけるかも分からない。さらに、一緒に取り組むためには、つながっていないとできない。大きなつながりもあれば、小さいつながりもある。永続的である必要もない。そのような活動が活発に行われる環境を作ることが重要と考える。そのためのイメージとして、つながる場の形成といったことが計画に入ってくることが意味のあることと考えている。 第5章は工夫を重ねて見やすく、理解しやすくし、こんなことならできるといったことやこういうことを考えないといけないんだといった気づきにつながるように作っていきたい。最終的に、どのように伝えていくかが重要と考える。
会長	パブリックコメント前の専門部会は今回が最後となる。追加の意見等があれば、是非事務局に連絡して頂きたい。計画のD0の部分は、経常的に進められるものと、動かしていかないと絵に描いた餅になる部分がある。それぞれの立場の人が思いを込めて、グランドデザインである計画を進めていき、5年後には計画の評価・検証することがその後の議論につながっていく。計画をどのように実行していくか、自分事としてパブリックコメントを通じて市民に問うとともに、委員も含めて参加してもらい、意見等があれば事務局に伝えて、次につなげていけるとよい。何事も情報を持ち寄るところからスタートすると思うので、情報を共有できるネットワークを持ち続けることが必要である。 見える形の成果を追い、計画を結実させるためにどうしたらよいかについて考えていただきたい。事務局も具体的アクションを起こすインセンティブを与えてもらうこと等は必要かと思う。 予定時間が来たので本日の議論はここまでとする。 次の議題（3）その他について、事務局から何かあるか。
事務局	今後のスケジュールを確認させて頂く。 本日の意見を踏まえて素案を再調整する。再調整した素案を10月19日の第3回審議会に示して最終的に素案として承認頂く。その後、11月16日～12月8日までパブリックコメントを実施する。パブリックコメント期間中に、パネル展示として市内3地区において本計画素案の周知事業を行う。パブリックコメントを終えた後、年明けに第7回専門部会を開催し、パブリックコメントでの意見を示しつつ、それらを反映した最終計画案を確認頂く。審議会及び庁内調整会議に諮った後、3月に計画として公表する予定である。 議会には、パブリックコメント前に総務委員会で計画案及びパブリックコメント実施について行政報告を行う。 追加のご意見があれば9月22日金曜日までにお送り頂きたい。
会長	本日の議事は終了とする。